

# 乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.88

2021.9

## 新型コロナウイルスワクチン接種後における 乳がん検診受診時期の推奨について

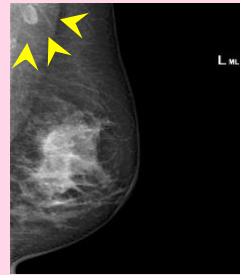


新型コロナウイルスワクチン接種後、  
すぐに乳がん検診を受けてもいいですか？

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応として、倦怠感や頭痛、発熱の他に、ワクチンを接種した側のわきの下のリンパ節の腫れ(腋窩リンパ節腫大)がみられることが報告されています。ワクチン接種後の腋窩リンパ節腫大は、良好な免疫反応を獲得している兆候ですので心配はなく、数日から最長10週間後までには自然にひいていくことが分かっています。

そして日本乳癌検診学会は、このワクチンの反応によるリンパ節の腫れが、マンモグラフィ検査や乳腺超音波検査などの画像診断に影響を及ぼすため、乳がん検診はワクチン接種前か、2回目のワクチン接種後少なくとも6~10週間の間隔をおいてから施行することを推奨する手引きを出しました。

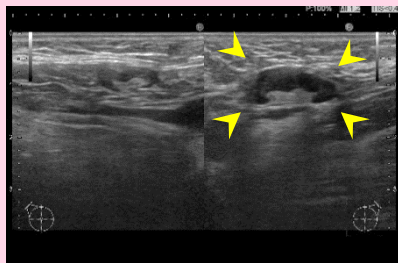
そのため当院でも、乳がん検診は「ワクチン接種前、あるいは2回目のワクチン接種後10週間以上たってからの実施」を推奨させていただくこととしました。(※ワクチンを1回のみ接種する方は、その日が起点となります。)



リンパ節が腫大したマンモグラフィ画像

乳がん検診を受けることができる期限が迫っているのですが…？

乳がん検診を推奨しない時期においても、例えばその時期でないと受診できない事情がある場合など、ご本人の希望により受診することは可能ですので、ご相談ください。(※乳がん検診を推奨しない時期や既に乳がん検診の予約をされていた場合の受診は、受付時にワクチン接種日や右腕・左腕等の情報を参考にして、画像診断を行うことが可能です。)



リンパ節が腫大した超音波画像



検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師  
矢竹 秀穂